

事業報告書

令和7年1月1日から令和7年12月31日まで

特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら

1 事業実施の内容

当団体のミッションの追求として、隠岐の自然環境を保全するための活動を行いました。主とする核としては生物調査・保全活動・環境教育・エコツーリズムの3部門です。自然専門機関としての能力を高め、地域資源を発掘し活用することを通して、自然を生かした地域づくりに貢献し、地域住民が受益者となることで、さらに自然が保全されるという循環をつくり出すことを目指して各事業を実施しました。

自然環境教育の強化を目的とした活動の中でも事業費のメインとなっている森のようちえん「お山の教室」事業は、町内の少子化のため海士町との協議の上、移行を計画していた認可園『地方裁量型認定子ども園』ではなく引き続き委託事業として継続しました。いつでも認可園に移行ができるように、建物の改修工事は終了しました。また、保育士の待遇を町内の保育園と差をなくすように働きかけ近づけることができました。園児について、定員14人のところ16人が続いており、今期初めてキャンセル待ちの児童が出ました。お山の教室が徐々に人気になっていることが伺えます。

外に向けた環境教育の活動として、西ノ島の保育園の未就学児を対象とした自然観察体験会や海士町、西ノ島町の小学校、中学校、高校への出前授業にも力を注ぎました。また、大人の島留学生にむけたジオパーク研修を実施し、若者への環境教育活動にも広がっています。

エコツーリズム関連事業として、国内での観光需要の高まりを受ける中、エコツアーガイド事業や交流事業など島外者の来島が増加し、昨年度に比べるとツアーガイドや研修講師としての要望も高まりました。このような動きの中で、職員のガイド力向上のための研修参加の機会を増やし、資質向上にも努めました。

自然保全に関しては、独自の自主事業以外に、今年度も環境省との連携を強化する中で、協働事業として自然保護活動に取り組みました。

(1) 自然環境保全事業

環境省や、保全調査活動を専門とする公益財団法人と連携し、隠岐の生物調査を実施しました。また、公共工事に対する環境アセスメント調査も行いました。

- ① 鳥類調査について、海士町内での繁殖初確認種を論文としてまとめ連携する研究機関の研究報告に寄稿しました。また、調査活動報告としては、隠岐の文化財へ隠岐島前地域の鳥類相について取りまとめたものを執筆寄稿しました。

毎年実施している継続的な調査として、鳥類標識調査について、渡り鳥の通過状況の把握のため、海士町金光寺山にて春、秋の2シーズン実施、海士町中里地区で秋期に10日間を行いました。

- ② 昆虫部門の調査では、年間を通じて昆虫サンプルの捕獲を行い、隠岐諸島の昆虫目録作成に向けた資料収集に努めました。また、2025年4月には、渡りを行う蝶として知られるアサギマダラの幼虫を、西ノ島の高崎山および大山で発見しました。山陰地方における本種の繁殖記録は希少であることから、繁殖の実態を正確に把握するため、同年11月より大山での継続調査を開始いたしました。その結果、改めて幼虫の生息を確認できたため、2026年初夏まで月1回ペースで定点観測を継続しています。
- ③ 地域住民を対象とした自然保護の啓発活動としては、環境省が新たな自然保全の制度として制定した自然共生サイトの登録については審査結果待ちとなっています。

- ④ 当団体の自主的生物保全活動として、金光寺山のオニヒョウタンボクとホタルカズラ及び諏訪湾の草原の保全活動を実施しました。また、海士町教育委員会と協働し、国内唯一の自生地となるタケシマシシウドの保全活動も実施しました。
- ⑤ 環境省との連携事業では、2022 年度に西ノ島町星神島でドブネズミの侵入を確認したことから、緊急的な対策として当団体が委託を受けて殺鼠剤散布によるドブネズミ駆除活動及び星神島で繁殖する鳥類への影響を調査するモニタリングを実施しました。
- ⑥ 西ノ島町及び海士町における林道開発における事前の環境アセスメントとして、西ノ島町高崎山地内と海士町西地区地内で植物調査を実施しました。

(2) エコツーリズム事業

ガイド業務および自然体験事業の実施数は前年度並みとなりましたが、株式会社海士との連携による客単価の上昇、および海外からの小規模ツアーの増加により、売上は増加いたしました。既に来年度以降のガイド依頼も届いており、今後も海外小規模ツアーの需要が見込まれます。また、ツアー実施時期は4月～11月と幅広く、需要は拡大傾向にあります。

- ① 観光体制の構築：今年度は隠岐 DMO、および島内観光事業者（株式会社島ファクトリー、株式会社海士）との連携を強化しました。各事業者の目的に最適化したツアーや体験を実施することで、町内の観光事業体制の構築に貢献。特に、株式会社海士が運営するホテル Entô との連携では、富裕層向けツアーや子ども向けプログラムを協働で開発し、幅広いニーズに対応できる高付加価値なツアーの実施体制を整えました。
- ② インバウンド対応：海外旅行会社からの定期ツアーに加え、個人客からの依頼も増加したため、英語ガイドの実施回数は前年度比で約2倍となりました。今後、さらなる訪日客の増加が見込まれます。
- ③ 地域貢献・スキル向上：島内向けには、隠岐ジオパーク推進機構からの委託を受け、ガイド養成講座の講師を務めました。また、フィールドワークを通じて動植物への理解を深め、ガイドとしての専門知識とスキルの向上を図りました。また、NHK 連続ドラマ「ばけげん」の放映に伴い、小泉八雲ゆかりの八雲公園における再整備事業として樹木の植栽委託を海士町より受け、海士町に生育する樹木を選出植栽し新たな公園づくりに尽力しました。

(3) 環境教育事業

自然環境教育の強化を目的とした活動の中でも事業費のメインとなっている森のようちえん「お山の教室」事業も10周年を迎え、さらなるステップアップへ移行するため、行政機関との協議を盛んに実施し、海士町のまちづくりの一員としての協働強化をはかり、また団体運営の基軸として安定化に向けて努めました。外に向けた環境教育の活動として、西ノ島の保育園の未就学児を対象とした自然観察体験会や海士町、西ノ島町の小学校、中学校、高校への年間50日以上授業を実施しました。また、大人の島留学生を対象とした研修を年間10回実施しました。

- ① 海士町教育委員会の委託事業である森のようちえん「お山の教室」の活動は、月曜日～金曜日までの毎日型の開園としては8年目を迎えました。昨年度から引き続き園児は定員14名を上回る16名が在籍しており、特に移住者にとって海士町の魅力の一端となっていることが実感できます。
- ② 学校対象の環境教育活動としては、まず（一社）隠岐ジオパーク推進機構のジオパーク講師派遣制度により、島前地区の保育園・小中高学校で19回、参加人数延べ150人に講師活動を行いました。学校教育カリキュラムの中でジオパーク学習の要素が

コメントの追加 [隠N1]: 大林さん

ある単元で単発的に学習を行いました。今年度は西ノ島中学校1年生の総合学習で故郷の魅力発見をテーマに探究学習を行っており、ジオパークの視点で魅力を探る授業でジオパーク講師派遣制度を活用する動きがありました。また、島根県助成金の事業県民参加の森づくり事業では西ノ島のみた保育園、島前地区小学校3校で23回参加人数延べ350人に講師活動を行いました。地域の自然に親しみ、観察する活動や森・川・海の繋がりについての学習を行いました。

高校に対する取り組みとしては、隠岐島前高校や隠岐高校の環境学習の非常勤講師として継続的に関わっています。

- ③ (一財)島前ふるさと魅力化財団の大人の島留学制度で来島している島留学生に、自然観察会及びジオパーク研修を行いました。昨年度より受け入れ人数が大幅に増えたことで研修体制が変わり、任意参加の研修になりました。今年度は年10回、参加人数は延べ114人でした。任意研修になったことで、学ぶ意欲が旺盛な印象で、野草食体験では身近な食べられる植物に興味をもち、自然観察の楽しさを体感している様子でした。また、ジオパーク研修では海士町を中心として行いましたが、昨年度西ノ島でもフィールドワークがしたいと要望があり、今年度は西ノ島でもジオパーク研修を実施しました。

(4) 都市農村交流事業

今年度の宿泊利用者は昨年より若干増加し、301名でした。大学のゼミ合宿・研修を目的とした利用に加え、企業の研修目的利用がありました。夏季には海士町の小学生の自然体験学習イベントでの利用や島前高校ヒトツナギ部のイベント利用がありました。

施設利用実績は、例年通り堅調です。週5日のお山の教室参加者やインターン生に加え、地域間交流や会議の場として研修ホールの利用がありました。

宿泊人数合計：301名 施設利用人数：118名（お山の教室の利用除く）

(5) 地域住民生活支援事業

地域の野良猫抑制対策のための避妊、去勢手術の援助活動を2日間実施しました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支報告書の事業費の金額(単位:千円)
自然環境保全事業	・地域の生物調査活動 ・海岸の保全活動 ・外来種生物に対する対策及び駆除活動	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 4 人	(D) 隠岐郡の住民 (E) 2,400 人	51
エコツアーリズム事業	・エコツアーの新メニュー構築 ・住民向けジオパークガイド講座開催のため、推進協議会との協働 ・ガイド育成のための講座における講師	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 4 人	(D) 隠岐郡内の観光関係者や商店等、来島者 (E) 200 人	5,011
環境教育事業	・地域の幼児、小中学生、高校生への環境教育活動 ・森林環境学習教室の開催 ・学生、企業、公務員等社会人対象自然環境研修の講師及び助言、補助	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 12 人	(D) 全国 (E) 2200 人	35,471
都市農村交流事業	・島内者と島外者の交流活動 ・自然体験者への施設提供	(A) 通年 (B) 隠岐郡海士町 (C) 4 人	(D) 全国から海士町を訪れる旅行者と地域住民 (E) 220	433
地域住民生活支援事業	・地域野良猫対策の支援	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 1 人	(D) 隠岐郡の住民 (E) 100 人	0